



■この新聞記事を読んで、皆さんはどう思いましたか。

意見、アドバイス、思いつく方法など、自由に書いてください。

だいしんさい
大震災と外国人

東日本大震災で落ち込んだ観光を立て直そうと、政府は外国人1万人を無料で招待する計画を進めるといふ。実際の日本を見て、その良さをPRしてもらおうとの狙いだが、原発事故が収束しないなかで、どこまで効果があるのだろうか。

観光客の減少に比べて、あまり注目されていないのが、いま日本に住んでいる外国人の存在だ。放射能汚染によってどんな影響があるのか。災害時にどう行動すべきか——。外国人にとっても切実な情報は、おもに自治体、NPO、学校が提供してきた。

以前から、災害時の通訳ボランティアを育成してきた仙台国際交流協会は震災後、ボランティアの協力をえて外国人への情報を提供してきた。中越地震で被災した新潟県長岡市の国際交流センターのサイトには、多言語による洪水非難地図が示されている。

各地の国際交流活動を追った毛受敏浩氏は近著で、「多くの外国人を受け入れ、地域の活力に変えてきた経験、人材がいるということに多くの日本人が気づいていない」と論じている（「人口激減—移民は日本に必要である」新潮新書）。

日本で安心して暮らす外国人が増えれば、おのずと日本の良さが海外に伝わろう。政府はそのための施策も忘れないでほしい。

(朝日新聞 2011. 11. 1)